

# 就職座談会

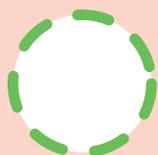
## 就職座談会 2023 レポート

### 4年生パネリスト



Aさん  
天野ゼミ

システム  
エンジニア



Bさん  
平井ゼミ

化粧品メーカー  
広報企画職



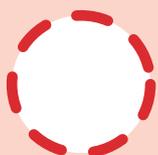
Cさん  
藤本ゼミ

アパレルメーカー  
販売職



Dさん  
大野ゼミ

電気機器  
総合職



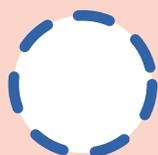
Eさん  
尾関ゼミ

インフラストラク  
チャーエンジニア



Fさん  
平井ゼミ

公務員  
上級事務職



Gさん  
肥後ゼミ

アシスタント  
ディレクター



Hさん  
肥後ゼミ

サービス  
広告制作

- A.天野ゼミ所属のAです。内定先はIT企業で、システムエンジニア職として採用を頂いています。
- B.平井ゼミ所属のBです。メーカー（化粧品関係）の広報企画職に内定をいただきました。
- C.藤本ゼミ所属のCと申します。アパレル（金属アクセサリ）メーカーの販売員として内定を頂きました。
- D.大野ゼミ所属のDです。N株式会社（電気機器）の総合職・戦略コンサルタント部門に内定しました。
- E.尾関ゼミ所属のEです。内定先はIT企業でインフラストラクチャーエンジニアとして採用されています。
- F.平井ゼミ所属で地元の市役所の上級事務職で内定をいただきましたFです。
- G.肥後ゼミのGです。テレビの派遣会社のアシスタントディレクター(AD)として内定をいただきました。
- H.肥後ゼミのHです。総合人材サービス会社のクリエイター（デザイナー）として内定をいただきました。

## Q2. 就職活動はいつ頃、何から始められましたか？

また、就職活動の大まかな流れを教えてください。

A.3年生の4月頃にSPIとCABの勉強に手を付けるところから就活を始めました。私は同年の夏から秋にかけて行われるインターンには全く参加せず、その間に諸テスト対策と自己分析、そして**ガクチカ**（学生時代に力を入れたこと）の話題作りを行っていました。12月頃に業界・企業研究と**ES**（エントリーシート）のテンプレ作りに取り掛かり、志望する企業をいくつか選定した状態で2月に初めてインターンシップに参加しました。3月の就活解禁後は自分が志望している企業は勿論、そこと同じ業界にいる企業の説明会にも参加し、志望度の高い企業の選考に落ちたときの退路を作りつつ就活を進めました。一番早く頂けた内々定は3月末で、そこから4月の中旬にかけて内々定をいくつか頂き、そこから一社を選んでその企業に内定承諾をお伝えしました。

B.3年の夏ごろからキャリアセンターや学科主催のイベント、就活講座には少しずつ参加していましたが、本格的に始めたのは3月の情報解禁からです。

3月：エントリー、ES提出がメイン。少しずつ選考が始まる。

4月：3月に続きES提出。少しずつ面接が始まる。

この二か月間はほぼ毎日何かしらの予定が入っていた。

5月：ほとんど面接ばかり。月末に一社最終面接を受けた。

6月：内々定

C.3年の6月にマイナビの合同説明会に参加し、就職活動を始めました。業界を絞らずに様々な業界の説明会やインターンシップに参加しました。しかし後期が始まる頃に一度就職活動の熱が冷めてしまい本格的に再開し始めたのは2月ごろでした。面接やES対策をエンカレッジという団体を活用して相談に乗って頂き、4月ごろから内定が出始め6月下旬に就職予定の会社から内定を頂き就職活動を終わりました。

D.非常に遅いのですが、やんわりと始めたのは3回生の11月ごろです。延々性格診断をしていました。2、3月に焦り始めて合同説明会や**ジョブトライアウト**（人材サービス会社主催イベント。グループワークを通じて企業人事関係者に評価を受けることができるイベント）に参加しましたが、真剣に始めたのは4回生の4月です。

E.3年生の6月頃から始めました。まずは自己分析を始め、その後WEBテストの勉強をしました。3年生の6月～8月には合同会社説明会や個別の会社説明会、インターンシップなどに参加しました。9月頃にはインターンシップに参加した企業の早期選考に進み、面接を受けました。現在就職予定の企業からは1月頃に内々定をいただきました。

F.3年生6月市役所の長期インターンシップに参加し、公務員試験勉強開始。（大学の資格講座を利用）秋頃、民間企業のインターンシップ（3つほど）に参加。

12月民間企業の早期選考で一社内定。民間企業の就活は一旦終了。

4年生4月くらいからゼミの先生にESの添削や面接指導をしていただく。

6月公務員筆記試験筆記試験終了後は面接練習もかねて民間企業を3社ほど応募。

8月内定

G.就職活動を本格的に始めたのは3年生の3月の後半ぐらいです。まずマイナビでテレビ業界の会社を見て、説明会を聞いて自分が良いと思う会社があればエントリーをしました。そこから、ESを出して、面接を受けました。面接は3回程度で、一次面接はグループ面接が多かったように思います。**GD**（グループディスカッション）があるところもありました。筆記試験もあり面接を受ける前にするところもあれば、最終面接と一緒にするところもありました。それが終わり内定が決まりました。

H.3年生の8月頃から合同説明会に行きはじめ、同じく10月にインターンシップに一度行きました。面接を受け始めたのは2月からです。

### Q3. 自己分析はいつ頃、どのようにされましたか？

A. マイナビやリクナビの自己分析ツールを使用したのは3年生の夏頃だったと思います。ただ、そういったツール以上に、自分の過去の言動やそこに行き着くまでの思考を思い出してみるなど、自分で思索することのほうが役立ったと私は感じています。ツールで役に立ったと感じたのは他己分析のツールで、顔を合わさずに知人から客観的な自分を教えてもらうことが出来るので大変重宝していました。

B. 学科主催の就活講座で、基本的な書き方やエピソードの考え方などを教えて貰えるので、それに従って3年生後半くらいから考えていました。本格的に文章を考え始めたのは3月の情報解禁以降。ここでほとんどの企業が一斉に動き出すので、ES提出の締切の時期が重なって苦労しました。3月までに自己分析やガクチカなどの文章は用意しておくべきだと思いました。

C. 3年の6月の就職活動を始める際から少しずつ始めていました。夏のインターンシップで自己分析を行ったリエンカレッジで自分史と一緒に作って頂いていました。後は友人と就職活動の相談をし合っ  
て自己分析をすることが多かったです。

D. 性格診断やジョブトライアウトの評価を見ながら徐々に行っていました。結局はESを提出しながら自己分析を高めていたように思います。

E. インターンシップに参加するにあたって自分の強みや弱みについて考える機会が増えたので6月頃に各種就活サービスのコンテンツを利用して自己分析をしました。

F. 4年生の4月くらいから 就活ノートを作りました。自分の長所・短所。他の人から見た自分の長所・短所などをはじめに書きました。

G. 自己分析は就職活動を始めた3月頃にしました。自分のこれまでの経験を通して、自分がどのような性格をしていて、何が向いているのかを分析しました。

H. 2月に初めての面接を受ける前に、学内の講座で自己分析を行いました。

### Q4. 業界研究、企業研究について具体的にどのように調べましたか？ また、業界は絞って受けていましたか？

A. IT業界というところまでは予め絞っていたので、インターネットで検索して業界と業種をより深く知るところから始めました。一口にIT企業と言っても業種は幅広く存在しているため、自分がどんな場でどんな仕事をしたいのかを考え、それと調べて理解した各業種の実態を照らし合わせながら業種を絞りました。企業研究では（ワンキャリアや就活会議など）就活生の使用を想定したサイトだけでなく、（オープンキャリアやキャリアコネのような）転職活動時の使用を想定されているサイトなどからも情報を拾うようにしました。また、SNS上でIT業界の動向や就活情報を発信している人のブログを読むなど、あらゆる検索を行い企業のことを調べていました。

B. ほとんどマイナビです。勤務地などの条件はありましたが、業界は絞らず受けていました。

C. 業界研究も企業研究もインターネットを利用して行いました。業界を絞らずに就職活動を行っていたので幅広い業界の説明会を受けて業界研究・企業研究をしていました。

D. 業界研究は合同説明会のトークセッションを聞いたり、もらった冊子を読んだりして行っていました。企業研究は前日に企業名を検索して詰め込んで行っていました。業界は幅広く受けて行っていました。

E. 最初からIT企業に絞って受けていました。業界研究は各種就活サービスのイベントに参加したりして行いました。企業研究についてはマイナビやリクナビで軽く調べる程度で興味を持った企業にはインターンシップや選考に参加するなかで調べて行っていました。

F. 市の政策をホームページやインスタグラム、広報誌などで情報収集しました。

G. 業界はテレビ業界に絞っていたので、マイナビでどんな企業があるのか調べて、ホームページを見たり、企業の口コミが書いてあるサイトを登録して調べたりしました。

H. 業界研究や企業研究は専用のノートを作り、IR情報、中期三か年計画等を見てその企業がどのような経営戦略をとろうとしているのかを中心に勉強しました。業界は絞らずに受けました。

## Q5. この業界に進もうと思った最終的な決め手は何ですか？

A. システムを作る仕事に憧れがあったためIT業界への就職を決めました。私の最終的な内定先はユーザー系のSierになるのですが、その業種を選んだ決め手は親会社の経営が傾かない限りは仕事が無くならないという安定感でした。

B. 面接で感じた社内の雰囲気や社員の人柄と、広報職なので学科で習った内容が活かせると思ったからです。

C. 情報メディア学科なので学んだことが活かせるIT業界も受けて内定を最初に頂いていたのですが、自己分析や業界を絞らずに就職活動をしてきたことで自分自身が元から興味があったファッション業界に惹かれるようになり、自分らしく働くことができるのはこの業界なのではないかと思いこの業界に進むことに決めました。

D. 特に業界では決めていませんが、強いて言えば得意なことを活かせる業界だと考えたからです。

E. もともと高校生のときから興味があったことや大学で4年間学んだ知識を活かせる業界で働きたいという思いがあったことがIT企業に進もうと考えた最終的な決め手だと思います。

F. インターンシップに参加している中で事業内容や業務内容に興味があったため、地元で働きたかったためです。

G. テレビが好きで、テレビ業界に入りたいと思ったのが最初の決め手です。3回生の夏休みなどにIT企業のインターンシップや説明会に行きましたが、それでもテレビ業界に行ってみたいという思いが消えていなかったため、この業界を志望しました。

H. ゼミを受けていてやはりモノづくりが好きで、これを仕事にしたいと感じたからです。

## Q6. 企業を選ぶうえで何を重視しましたか。また、そう考えた理由は何ですか。

A. 建前ではなく本音を話すと、自身の今後の生き方やキャリアプランをしっかりと考えることが出来なかったため、景気に左右されない安定した経営・財政基盤があることを何よりも重視していました。就活を終えて、そういった安定感のある企業であればあるほど、法令遵守意識が高く、ワーク・ライフ・バランスも取りやすい傾向にあるのではないかと印象があります。

B. 勤務地（実家から通える場所）、休み（完全週休二日制）、会社の雰囲気です。最も興味を持っていた業界が中途採用ばかりで転職の可能性も頭に入れていました。転職する場合、最低でも3年のキャリアが無いと次に繋げにくいという話を聞いたため、入社後のことを想像し、まずは3年間そこで仕事を続けられるかを考えながら探しました。

C. ワクワクして自分が成長できる環境であるかということに重要視していました。どの企業に就いても大変な中で少しでもワクワクしながら働くことができ自分自身も良いように成長できる環境であればやりがいをもって働くことができると考えていたからです。

D. 将来の年収と労働時間と企業の将来性（安定して稼ぎたいため）、知名度（やる気に繋がる）、教育制度（転職する際の価値を高める）です。

E. 企業の方針や社員の雰囲気（自分の価値観や考えと合う部分が多ければ長く働くことができると考えていたため）、仕事内容（自分の強みを活かして仕事をしたいと考えていたため）、将来のモデル年収（将来のライフプランを設計しやすいと考えていたため）です。

F. 自分がやりがいを感じて働けるか、自分が成長できるかを重視していました。

G. 一番重視したのは、どれだけ社員のことを考えてくれるかです。初めて社会に出て働くことに不安を感じていたため、相談できる環境があり、研修もしっかりあるところを重視しながら企業選びをしました。

H. 一番の決め手は説明会の際に先輩に「この企業にした理由を教えてください」と質問させていただいたとき、「人間関係が良かったからです」と仰っていたことです。それが一番印象的でした。

## Q7. 面接対策はどのようにされましたか？

また、実際の面接でどのような質問をされましたか？

A. 対策として、絶対に質問されるであろう“志望動機/自己PR/ガクチカ”は面接前に喋りたい内容を書き出し理路整然とした文章を組み立てるようにしていました。面接でもとにかく“理路整然”を意識して、話が散らからないように気を付けていました。実際の面接は記入したESベースに話が進み、アイスブレイクも含めて趣味や学校・学科での活動の質問を、そこから転じて人柄を探るような質問をされていたように思います。そういった話題の際はあまり長く自分の話を続けずに面接官とコミュニケーションを取るということを意識していました。その他、キャリアプランやSPI性格診断で出た性格からの質問もありました。

B.3年後期に共通教育の「自己アピールトレーニング」という授業を受けました。面接の練習だけでなく、スーツの着方や姿勢、お辞儀のやり方、話し方なども改めて学べるので、この授業の内容は就活にかなり活かされたと思います。面接での質問はほとんどESの深堀なので、何を聞いたかを覚えておくことと、内容について話せるようにしておくことが大事です。その他印象的な質問は、「5年後、10年後のビジョン」「自分を動物に例えると」「就活が終わってから働き出すまでに何をしてお過ごしですか」です。

C. エンカレッジを利用して模擬面接をしてもらっていました。あとは、よく聞かれる質問項目の回答を考え、口に出して読むようにしていました。丸暗記をすると面接当日に緊張で忘れてしまうので大まかな内容を頭に入れておくようにしました。実際の面接では「ITパスポートってどんな資格ですか？」とIT業界以外の企業を受けると聞かれることが多かった印象があります。履歴書通りに質問されることも多かった印象があります。

D. とにかく様々な企業の面接を受けるようにしました。就活サイトで質問を予習して自身の解答を考えつつ、丸暗記は絶対に避けていました。実際の面接では、ガクチカを良く聞かれました。

E. 企業が提供している就活講座などに参加して面接対策をしたこともあります。しかし、練習では上手くいっていても緊張すると思うように面接できないのではないかと考え、場慣れするためにインターンシップに参加した企業の早期選考にたくさん参加して練習していました。実際の面接では志望理由に関する質問やガクチカ・自分の強みに関する質問が多かったように思います。

F. ゼミの先生に面談していただきました。実際の面接では学生時代頑張ってきたこと、それを通して学んだことや自分の強み、弱み。また、弱みを改善するためにしていることを主に質問されました。

G. 面接対策ではキャリアセンターを利用させていただいて、ガクチカや自分の強みなどを掘り下げていただきました。面接の質問では、長所や短所、将来どうなっていたいかを聞かれました。また、テレビ業界なので好きなテレビ番組とその理由を聞かれることが特に多かったです。

H. 学内の講座で対策しました。あとはアルバイト先の社員の方にロールプレイングをしていただいたこともあります。実際の面接ではどの企業でもアルバイトと学生時代に何をしてきたかを中心に聞かれました。

## Q8. これだけは伝えておきたい!という面接のコツを教えてください。

A. 丸暗記で自分の言いたいことを伝えるのではなく、円滑なコミュニケーションを取ること、そして繰り返しになりますが理路整然とした話を、面接官の質問の意図から逸れずに話をするのは大切だと思います。  
また、個人的に良かったのではないかと感じているのは語彙の工夫です。「考える」を「模索する / 思案する」、「成果が出る」を「功を奏す」など、一言変えるだけで印象が変わる言葉はたくさんあります。笑顔や質問に適切に答えるなど、面接の基本が完成している人には語彙の工夫もオススメしたいです。

B. まずは笑顔が大事。第一印象で好感を得やすくなり話を聞いてもらいやすくなることと、自分自身の緊張や不安を和らげられる効果があると思うからです。ほとんど逆質問の時間が設けられるので、最低でも5個は質問を考えていくべきです。(集団面接では他の人と質問が被る可能性もあるので考えられるだけ用意しておくとい)

C. 常に気を付けていたことは笑顔でいることです。マスクを着けての面接であったり、オンラインで面接を受けることばかりだったので大きめに笑顔を作るぐらいでもいいのかなと思います。あとは、目を見ることとうなずく動作も思っているより大きめにしても大丈夫だなと思いました。

D. 笑顔!丸暗記しない!知ったかぶらない!会話ベースで!主導権を握る!

E. たくさん練習することと笑顔で話すこと、何を聞かれても落ち着いて答えることの3つだと考えます。実際に何度も練習していると自然と笑顔で落ち着いて答えることができ、緊張しているように見えなと思います。

F. 面接の前に、頭で考えるだけではなく、親や友達、先生などに実際に話してみることです!

G. ES に書いたことは質問されることが多いので、しっかり答えられるようにしておくこと。また、私服で来て下さいという面接が多かったのですが、その場合はスーツにすると浮いてしまうので、案内通りに私服で大丈夫でした。

H. 内容はもちろんのこと、大人とのコミュニケーションの取り方を見られていると思います。私は今回就職を決めた企業の三次面接のとき、あまり感触が良くなかったのですが、大人とのコミュニケーションの取り方、想定外の質問を投げたときの対応の仕方を評価して頂いて最終まで進むことができました。内容をしっかり作ることも大切ですが、ロールプレイングや困ったときに使えるワードを整理しておくとい良いと思います。

## Q9. 自分は他の人と比べてここが違うぞ!というところは何ですか? また、その強みをどうやって見つけられましたか?

A. 主体性と向上心、柔軟性を強みとしてアピールしたかったので「自発的に行動し、得た経験や知識を活動に繋げられることが強み」と、ESや面接時の自己PRでお伝えしていました。また、この強みは、自分のこれまでの経験から逆算して、自己分析した自分から逸脱しない範囲で発見したものです。私のこの強み自体はありきたりなものですが、強みが活きたエピソードをありきたりではないものにしようと意識していたので、そこは面接官に評価して頂けたのではないかと思います。

B. 粘り強さです。ゼミで参加したコンテストについて、入賞には至らない結果となりましたが、授業時間外にも準備に取り組んだり、ギリギリまで発表資料作りにこだわったりと、過程を掘り下げていくことで、自分には最後まで諦めない粘り強さがあると考えました。また、周りの人から見た自分の印象を聞いたりもして見つけました。

C. 自分の強みを見つけることは私自身すごく難しかったのですが、就職活動を始める前の普段から友人によく言ってもらっていた、周りを見ることができていることを強みにしていました。友人と就職活動の相談をしながら見つけたときにエピソードも重ねて教えてもらい、自分自身で納得できたことから一番の強みとしていました。

D. 面接においては、愛嬌・素直・前向きであることを評価されていました。ESでは行動力と発案力を前面に出しました。ゼミやアルバイトで培いました。

E. 就活では周りを引っ張るリーダーシップがあるところを強みとして挙げていました。強みとまでは思っていませんでしたが、3年生の春ごろに自己PR文を考えるなかで尾関先生から言っていたことで強みとして挙げるようになりました。そのほかにも好奇心旺盛なところやこつこつ計画立てて物事を進めていくところなど元々強みであると自分で考えていた部分はESのなかで面接官に伝わるようにしていました。

F. 継続力があるところです。バイトを6年間同じところで続けていることや、資格勉強を大学1年生から続けていることから。大学1年生の時から何をしていたか振り返ったり、友達に聞いたりしたことでこの強みを見つけました。

G. 私は粘り強さが自分の強みだと考えます。週に5日早朝のアルバイトを2年半ぐらい継続して行っており、周りの人たちにすごいと褒められることが多かったので、これは他の人にはない自分だけの強みではないかと思いました。

H. 自信をもって言えるのは社会人の方とのコミュニケーションの取り方だと思います。アルバイト先が集団塾なので、社会人の方と働く機会も多く、礼儀やマナー、言葉遣い、人前で話すことなど、全て鍛えていただきました。ただ、この強みは就活で多数の面接をこなしながら見つけたことなので、自分の強みや長所を見つけることも就活の醍醐味だと思います。

## Q10. 情報メディア学科は企業からどんな印象を持たれているか、 就活中に感じたことがあれば教えてください。

A. 面接時にどういった事を勉強しているのかを尋ねられる機会が多かったので、就活中は特別な印象を持たれているとは思わなかったです。ただ、関西に本社を置くIT企業であれば、人事の方などは情報メディア学科がどのような学科が把握されている可能性もゼロではないのかな、と思います。

B. 説明しないと何を学んでいるかはっきりと分かってもらえない印象がありましたが、私が受けた企業の面接ではほとんど学科について触られることはありませんでした。

C.IT 業界以外を受けることの方が多かったのですが、どんなことを学んでいるかを聞かれることが多くありました。情報系以外も学んでいたことから幅広いこと学べる学科であることを詳しく説明できるようにしておいた方がいいのかなと感じました。

D. 特にはないです。どんな学科か知られていないことが多かったのですが、プログラミングやマーケティングなどを学べる環境で、入学してから自分の道を選択しやすかったことを推していました。

E. 情報メディア学科が企業からどのような印象を持たれているかはわかりませんが、学科や授業内容について興味を持ってくださる企業の方は多かったように思います。情報メディア学科は文理融合系なので、企業の求める人材に合わせて学んできた授業などの話で文系寄りの内容も理系寄りの内容も話すことができるので自分は便利だなと感じました。

F. どういう勉強をしているのか想像できない学科なのでしっかり今まで勉強してきたことや情報メディア学科に所属していただけることを話せるようになっておいた方が良いと思います。

G. 映像も学べるというところに興味を持ってもらえたと感じます。どんなソフトを使っているのか、どんな作品を作ったのかを聞かれました。また、学科の強みである地下スタジオの話をして、撮影から編集までしたことがあるという経験が自分の武器になりました。

H.IT のことを質問されました。文理融合学科であることがこの学科の特徴なので、なぜ自分がこの進路にしたのかということを論理的に説明できると良いと思います。

## Q11. 興味を持っている職種以外も見学や面接に行きましたか？ また、そこで参考になったことがあれば教えてください。

A.SE 以外の職種であればプログラマーや web・モバイル制作のエンジニアなども少しだけ説明会に参加しましたが、web 方面の企業（特に web デザイナー/web ディレクター）や SES 企業からは即戦力みたいなものを求められがちであるという気付きは、自分の希望する業種を考えるのに参考になりました。そのあたりの企業は新卒に向けた IT 関連の研修も簡素なものであるという印象が残っています。ただ、これは私が参加した説明会の個人的な感想です。企業によっては異なるかと思いますので、一例として参考にしてください。

B. 会社説明会は受けました。興味が無くても説明を聴いてみることで、改めて就活の候補に入らないことがはっきりと分かって良かったです。また説明会やインターンシップは、就活そのもののアドバイスもしてもらえるので参考になった。

C. 様々な業界を見ていたので、IT 業界、生活用品の商社、アパレル業界の面接に行きました。色々な業界の説明会や面接を受けて説明会や面接官の雰囲気や企業のイメージを少しだけでも掴むことができ自分に合う・合わないを感じることができたので幅広い業界の説明会や面接を受けてよかったと思います。

D. 多くの面接に行きました。会社は必ず多くの職種で成り立っているので、多様な角度から様々な考え方を聞けたことが参考になりました。また、私自身が偏った見方でなくなるため選択肢が広がりました。

E.IT 業界を主に見ていたので他の業界・職種の見学や面接には行かなかったです。ただ、教育に関するサービスを提供している IT 企業や医療に関するサービスを提供している IT 企業など他の業界・業種に関わる IT 企業も多かったように思います。

F. 様々な職種のインターンシップに参加し、自分の向き不向きややりたいことを見つめなおした。

G.IT企業の説明会や企業体験に行きました。IT企業の仕事内容についてよくわかり、自分には難しいと思う作業が多いように感じたのでこの仕事は合っていないと思いました。

H.行きました。そこで私には向いてないかもしれない、という業界や職種をリストアップして、それ以外の分野の企業を受けるようにしました。

## Q12. インターンシップに行くのと周囲との差をつけられるとよく聞きますが、インターンシップは参加しましたか？

また、ご自身や周りで参加して良かったと実感されたことがあれば教えてください。

A.3年生の2月に初めて1Dayのインターンシップに参加しました。企業にもよりますが、インターンシップ参加によって早期選考への応募が可能になることが多々あるようなので、そこは利点だと思います。その他、自分以外の参加者とグループワークを通して交流することで、自分や周りの就活生のレベルを感じられるのも良い点だと思っています。

B.5日間のものを一度だけ参加しました。その他はオンラインのワンデーに参加しました。インターンシップ参加者のみの選考を取り入れている企業もあったので、少しでも気になる企業は参加しておいた方が良いと思います。

C.インターンシップは参加しましたが周りの子に比べて少なかったと思います。しかしオンラインのインターンシップが多かった中で対面のインターンシップに参加し、実際に経験することでコミュニケーション力をオンラインの時よりも身に付けることができたと思います。また早期選考に進めることもあったので効率よく就職活動を進めることができますと思います。

D.全く参加していません。参加すれば、内定が出やすくなるため、安心感につながるのではないかと思います。

E.実際に参加してみないとわからないことも多いので、とりあえず少しでも興味を持った企業のインターンシップには参加しました。企業について知ることができるだけでなく、早期選考に参加することができたり、WEBテストが免除されたり色々特典があったので参加して良かったなと思います。

F.社会人になる前に社会人の方と一緒に働けるのは貴重な機会なので参加して良かったと思います。私は約1年間の長期インターンシップに参加したので、面接で堂々と言えるようなガクチカもできました。

G.1日体験には参加しました。11と同じ回答になってしまうのですが、仕事を実際に体験してみて、自分には難しいと感じる部分が多く、この仕事は合わないと感じることができたので、参加してみて良かったと思います。

H.参加しました。早期選考の要項がもらえるので心の余裕にもなりますし、社員の方に質問しやすいと思います。

## Q13. 就活のために、利用していた施設やイベントを教えてください。

(キャリアセンター、就活支援カフェ、日経新聞などが主催するセミナーなど)

A.キャリアセンター主催の学内合同企業説明会に参加しました。自分が全く意識していなかった・知らなかった企業と出会えたりするので、参加したことで視野が広がったように感じています。

B.マイナビ主催の合同説明会(インテックス大阪での対面開催)です。参加企業の数がとても多いので、行く場合は予め調べて気になる企業の目星をつけて行動したほうが効率的に動けると思います。

C.イベントは「マイナビ」や「あさがくナビ」の合同説明会に参加する程度でした。支援カフェなどは利用せず、友人や家族に助けってもらって就職活動を進めていました。

D. マイナビやリクナビ、キャリアスの説明会等を利用していました。

E. キャリアセンターでの相談やリクナビ・マイナビ・doda キャンパスの合同説明会などを利用していました。

F. 特にありません。

G. インテックス大阪で行われたマイナビの企業が集まるイベントに行ったり、キャリアセンターを利用して面接の練習などをしました。

H. キャリアセンターには通いつめていました。主にESの添削をお願いしていたのですが、ESの内容について質問してくださったおかげで面接のロールプレイングになり助かりました。

#### Q14. 学業と就活の両立はどのようにしていましたか。

A. 3年生の12月から本格的に就活を始めて4年前期の授業が始まる前に就活を終えたので、学業と就活を両立しなければならない状況がなかったです。もし両立できるか不安で就活を早く終わらせたいなら、とにかく早くからの諸テスト対策とインターン参加をオススメします。

B. 就活中はゼミのみだったので、ほとんど就活に専念していました。

C. 授業単位を3年生の前期でほとんど取得できていたので後期のときには就職活動に専念できるような状況でした。そのため、両立で困ることはあまりなかったように思います。スケジュールの管理は携帯のカレンダーアプリとスケジュール帳の両方に説明会や面接の予定を書き込んで管理していました。普段からスケジュール管理をやっておくといいと思います。

D. 3回生までにちゃんと単位を取っておけばなんの問題もありません!!!

E. 1、2年生で多く授業を取っていたので3年生からは必修と教職や学校図書館司書に関する授業だけを取れば良い状況だったので丸1日授業がない曜日を作り、毎週その曜日にインターンシップや面接をいれるようにしていました。

F. 切り替えをしっかりとすることや、なにかを達成したらご褒美をすることで、学業と就活を両立していました。

G. 単位をほとんど取っていたので、就活は専念して行うことができました。

H. 正直とても大変でした。ESに追われる時期と後期授業の最終テストが重なっていたので3年生の1月はほとんど寝ていない状態でした。

## Q15. 就活中に感じた挫折と成功（失敗談と成功談）を教えてください。

また、それらを踏まえて、こう改善すればよかった!という点があれば教えてください。

A. 私が志望していた IT 業界は多重下請け構造の業界であり、企業の数もそこに従事する人々も無数に存在している、ややこしい業界だと個人的に感じています。私は業界のそういう形態を理解せず、自分がどの位置で働きたいかを考えないで企業探しを始めたので、志望したい企業を見つけられず迷走していた時期がありました。色々な企業を知れるという面では悪くないかもしれませんが、個人的には大失敗だったと思います。業界研究は自分の志望する業界を予め絞っていたとしても、しっかり行うべきでした。

成功談は、その失敗談から学んで企業研究をしっかり行ったことです。志望する企業について、OG 訪問などはしなかったものの、できる限りの検索で情報を集めました。就活は本当に情報戦なので、とにかくたくさん情報を集めることをオススメします。

B. 個人面接も集団面接もどちらも受けましたが、集団面接の方が苦手でした。集団は他の人に比べて準備不足だと感じながら話していたので事前準備はやりすぎというくらいやっておいた方がよかったと思います。個人面接は得意で面接結果でも良い印象を受けることが多くありましたが、とにかく笑顔でいることを意識して話し方や話す内容、振る舞いなどを変に取り繕わず自然体で受けられていたのが良かったのだと思います。

C. 失敗談としては周囲と比べてしまい自分を追い詰めていたことです。自分のペースで焦らずに就活をしていたら、もう少し気楽に余裕をもって就活をできたのかなと思います。成功談は数人の友達と就職活動の状況共有をしていたことです。これは私にとって良いモチベーションに繋がったなと思っています。就職活動のストレスも発散できお互いを高めあうことができたので良かったなと思います。

D. 多くあります。一例としては、企業によって求められている人間は違うという失敗談です。メーカーの GD では大人しく相槌を打てる人間が求められていたため惨敗しました（これを糧に他のメーカー GD で黙りこくっていたところ通過しました）。反対に金融や IT だと発言力が評価される傾向にあります。自分の理想とする就活生ではなく、企業の理想に近づくことが成功への近道かなと考えます。

E. 挫折としては選考で落とされるとあまり志望度が高くない企業でも数日間は気分が沈んでいたところかなと思います。何社も受ければ落とされる企業もあって当たり前だという気持ちで一喜一憂せず、落ち込んでもすぐに気持ちを切り替えることが必要だったと感じています。

成功としては早くに就活を始めたことでたくさん面接練習ができたところや内々定を早くもらえたことで気持ちに余裕を持ったまま就活を進めることができたところだと思います。

F. 想像していなかった質問が来て慌ててしまったので、もっと面接で来る質問を予想して、対策すればよかったと思います。

G. 面接は緊張して早く答えなきゃという思考になり、早口にしゃべってしまい、途中で自分でも何を言っているのか分からなくなってしまうことがありました。そのため、時間をかけてもよいので自分の言葉を整理して相手に上手く伝えられるようにすれば良かったと思います。面接練習をしていたので、入室や退室マナーは自信を持ってできました。面接はきちんと話せるのか不安な部分が多いので、他の部分で失敗しないように面接以前に完璧にできるところは完璧にして少しでも不安要素を無くして面接をしました。

H. 一番最初に受けた面接で、自分が正解だと思う答えばかりを言ってしまい、面接官の方に指摘を受けました。自分のものさしではなく、社会人としてのものさしで質問に答えなければいけないのだと感じた瞬間でした。

## Q16. 就職活動用のスケジュール帳は作りましたか？

また、スケジュール帳をうまく活用できた例があれば教えてください。

A. 就活専用のものは作らなかったです。普段から使っているスケジュール帳の活用と、短期間のToDoリストを作ったりして就活を乗り切りました。

B. 専用のカレンダーとスケジュール表を作っていました。スケジュール表は紙に「説明会、ES、テスト、一次面接」など項目を書き、企業名を書いた付箋を対応する場所に張り付けていました。エントリーしている企業数や選考の進みが目に見えて分かり、把握漏れも無くなるのでオススメです。

C. 就職活動用のスケジュール帳は作らなかったです。普段から使っているスケジュール帳と携帯のカレンダーアプリにスケジュールを管理していました。

D. 紙のスケジュール帳を買いました。面接中に次の予定を聞かれたときに携帯電話を出すのは憚られるため、買ってよかったと思います（結局就活が終われば続きませんでした、3日坊主だとわかっている人は安いのを買いましょう！）。

E. 作っていません。基本的にスマートフォンのカレンダーアプリを使用していましたが、対面の面接ではスマートフォンを見ることができないので手帳型のスケジュール帳にも予定を書くようにはしていませんでした。

F. 特に作っていませんでした。

G. スケジュール帳は作りませんでした。

H. 手帳は必ず購入してメモする方が良いと思います、スマホのカレンダーだと予定が溢れて表示されないことがあるので、筆記の方がおすすめです。